



ご挨拶

謹啓 時下の候 皆様におかれましては益々ご清祥のことと存じお喜び申し上げます。

さて、このたび、第8回臨床ゲノム医療学会大阪学術大会を2018年12月9日（日）に大阪歯科大学（大阪市中心区）で開催させていただくことになりました。

本学会は、最先端テクノロジーであるmRNAやゲノム診療を中心に、未病を早期に発見する技術や研究を、一般の臨床現場に応用し普及する活動を続けてまいりました。

歯科においては、全身の健康の入り口である口腔機能を、どのように改善し維持するかという点で、未病及び予防の考え方はすでに強く根付いております。また近年、社会が歯科医師に求めているものは、優れた技術だけではなく、思いやりや細やかな配慮など、歯科だからこそできるサービスが必要とされています。

そこで、今回の大阪大会は、メインテーマを「先制医療としてのゲノム予防医学・歯学への展開」2018～ゲノム歯科医は、マーナ（mRNA）検査で病気を入口・口腔で止める～とさせていただきます。

学会が勧める先制医療としてのmRNA・ゲノム診療は、医学・歯学の分野においてどのように利用することができるのか、そしてこの最先端テクノロジーを駆使し、歯科医師・医師・コメディカルなどの多職種連携により、国民の健康に効率的に寄与する新しい地域医療のモデル構築についても議論したいと考えております。

本大会の趣旨をご理解いただき、是非皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

2018年10月吉日



名誉大会長
渥美 和彦 (東京大学名誉教授)



大会長
川添 堯彬 (大阪歯科大学理事長・学長)